



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。☎秘書政策課 ☎ 36-7117

今月のテーマ 地籍調査の重要性と事業推進へのお願い

地籍調査とは、一筆（土地登記簿の一区画）ごとの土地の所有者・地番・地目・境界を確認して、面積を測量し、正確な地籍図・地籍簿を作る調査のことです。この調査は、各市町村が事業主体となって進めていますが、全国の進捗率 51%に対し、静岡県の平均は 24%という低い状況になっています。ちなみに、島田市の進捗率は 40%で、県平均よりは調査が進んでいると言えますが、現在の事業費ベースで試算すると、事業完成までにあと 170 年もかかる計算になります。近年は、事業の長期化とともに高齢化が進み、境界確認の立会いがますます困難となり、更なる事業の遅れが懸念される深刻な状況にあることをご理解いただきたく、今月のテーマとしました。

私なぜ、地籍調査を重要視しているかといえば、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災において、迅速な復旧・復興に着手できた市町は、すでに地籍調査が完了していた地域であり、調査が遅れていた市町では隣家との境界を定める作業に何年もかかり、大幅に復興が遅れた実態があったからです。

これらのことを踏まえ、南海トラフ巨大地震の被害が想定される県内において、地籍調査事業の推進の重要性を再認識するよう、私は、前回の県市長会で訴えました。厳しい



地籍調査に立ち会う市民

財政状況のなか、事業費や職員の確保など難しい課題を抱えている市町の現状を知ってもらい、大規模地震など災害への備えとして、地籍整備の緊急性の高い地域への補助の見直し、事業費の優先確保など地籍調査に要する予算の拡充方針を示していない国や県に強く要望したかったからです。

島田市では、現在、川根町の家山地区周辺の山林と六合地区を継続して調査を行っています。毎年、調査地域の拡充推進を図っていますが、なかなかスムーズに進まないのが現状です。この調査に時間がかかる要因の一つは、隣地との境界線でご納得いただけないケースが間々あることです。登記簿の記載より数センチ土地が狭くなってしまう場合も多々あり、不服申し立てをする方もいらっしゃるのが実状です。



官民境界の確認

地籍調査が行われた地域では、境界や面積など、土地の表示に関する登記の情報が正確なものに改められます。またその情報を基に、GPS を使って土地の境界を現地に復元することが可能となります。この結果、土地境界をめぐる紛争を未然に防止できるばかりではなく、これに伴って土地取引の円滑化や土地資産の保全を図ることができますので、調査へのご理解とご協力をお願いいたします。

地籍調査が行われた地域では、境界や面積など、土地の表示に関する登記の情報が正確なものに改められます。またその情報を基に、GPS を使って土地の境界を現地に復元することが可能となります。この結果、土地境界をめぐる紛争を未然に防止できるばかりではなく、これに伴って土地取引の円滑化や土地資産の保全を図ることができますので、調査へのご理解とご協力をお願いいたします。

みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などを紹介します。

新川根図書館が 8 月 26 日(水)、川根小学校に併設されてオープンします。コンセプトは「学校と地域をつなぐ図書館」。地域住民と児童が自由に行き交い、触れ合い、学び合う図書館を目指します。

図書館の入り口には「かわねのすてきを」をテーマに、川根小児童に募集して作成したシンボルガラスを設置。川根路を連想させる桜と迫力のある SL が、来館者を出迎えます。また、大井川流域の木材をふんだんに使った館内は、

木の香りにあふれ、ゆったりとした読書環境を演出しています。子どもと地域のお話しボランティアの交流の場となる「おはなしのへや」は、丸太小屋をイメージして作られ、メルヘンの世界へと導きます。

読書の秋に、川根を感じながら本を読んでみませんか。
(川根図書館)

